

農業名人

ユリづくり名人 いとう かつひろ 伊藤 勝弘

昭和17年生まれ 飯島町在住

自家採種による高品質なユリの生産



昭和36年に高校を卒業後、生家で水稲・養蚕・果樹・野菜の複合経営を家族3人で行っていましたが、思うように収入があがらないため、土地生産性の高い花卉栽培が有利であると考
え、ユリを栽培していた町内複数の花卉農家で栽培方法の研修を受けた。

研修を受けている数年のうちに、研修先の農家が栽培品目をユリから蘭などに転換してし
まったため、そこから種を分けてもらい昭和41年、当時24歳でユリ栽培を始めた。

ユリ栽培を始めた頃は、一年を通して藁を轆きビニールマルチを使う栽培方法で、これは
当時の県内でも先駆け的な栽培方法であった。

しかし、1年目はほとんど花が咲かず、2年目にも約6,000本と経営も安定しなかった
ため、昭和45年以降にはバラやリンドウの栽培を行った時期もあったが、徐々にユリの経
営が安定してきたため、それ以降はユリ一本に絞り経営している。

同時期に始めた仲間たちとマルチの色から手探りで研究を重ね、県内はもちろん、日本中
のユリの産地や種苗業者、また、オランダなど海外へも積極的に勉強に出かけ、また、経営
当初は、出荷先も農協など決まった市場も無かったため、個人で市場開拓に出歩くなどして、
栽培から販売ルートまで全て自分で確立していった。

現在の経営規模は、ユリがビニールハウスで10a、露地で55aで、年間出荷本数は16
万本を出荷しており、水田も1haの複合経営をしている。

ユリの種類は、経営開始当初から、球根から育成する「テッポウユリ」と、種から育成する
「新テッポウユリ」を栽培しており、ユリを始めた翌年に結婚して以来、苗の植え付けや出
荷時等の農繁期にパートを雇うものの、夫婦二人を主体とした労働力で経営を行っている。
自家採種による優良種苗の育成や品質の向上と、生産性の高位安定化を図るなど、豊富な経
験と卓越した栽培技術を持ち、市場でも高い評価を受けている。



気に入ったユリが出来たときには、各種コ
ンクールに出展しており常に上位入賞してい
る。近年では、平成23年に第43回信州フ
ラワーショーサマーセレクションにおいて農
林水産省関東農政局長賞を受賞している。

また、優れた人望により、農業委員や町経
営者会議の副会長、JA花卉部会の役員を歴
任している。